

アトラディウス支払動向バロメーター2024

B2B支払動向 アジア

企業がB2B支払リスクおよびキャッシュフローへの
影響を管理する方法



アトラディウス 支払動向バロメーターについて

アトラディウス支払動向バロメーターは、全世界の市場における企業間（B2B）支払動向の年次調査です。

当社の調査は、現在の厳しい経済および貿易環境がB2B顧客の支払行動に及ぼす影響に対して各企業がどのように対処しているかについて、調査対象企業から直接ヒアリングできる機会となります。本調査は、各企業がB2B顧客からどのように支払を受けているか、また不適切な決済によって引き起こされる問題点にどのように対処しているかについて貴重なインサイトとなります。

予期しない現金需要に資金を供給するためにどのような対策が講じられているか、長期的なキャッシュフロー問題のリスク軽減にどのような与信管理ツールが使用されているかに関する調査結果も、各企業が先行き不透明な時代に支払遅延または未払いという重大な問題にどのように対応しているかを理解するうえで貴重な情報となり得ます。

本調査では、調査対象企業が向こう数か月間に直面すると考えている課題、リスク、将来の事業成長想定にも重点が置かれています。

当社の調査結果は、B2B取引における企業の支払行動の現在のダイナミクスに関する有益なインサイトを提供し、その将来の姿となり得る新たなトレンドを特定できます。調査対象市場で事業展開する企業や事業計画を持つ企業にとって非常に有益なものとなります。

本レポートで取り扱うのはアジアに関する調査結果です。

インタビュー時期：2024年第3四半期。したがって、調査結果はこの点を念頭に置いて見る必要があります。

目次

B2B支払リスク管理 B2B支払遅延がアジア企業に もたらす収益性の課題	4
主な統計値とグラフ	5
将来予測 アジア企業は今後数ヶ月の 倒産リスク見通しで意見が分かれる	6
主な統計値とグラフ	7
調査設計	8

免責事項

本書は情報提供のみを目的とするものであり、いかなる読者に対しても投資助言、法的助言、または特定の取引、投資、もしくは戦略に関する推奨をするものではありません。読者は提供された情報の利用に関して商用または非商用を問わず、必ず独自の独立した判断に依拠するものとします。アトラディウスは、信頼できる情報源から得た情報を本書に掲載するよう最善を尽くしていますが、誤りまたは遺漏、あるいはこの情報の使用に起因して生じる結果に対して一切の責任を負わないものとします。本書に含まれるすべての情報は「現状のまま」提供され、完全性、正確性、適時性またはその使用に起因して生じる結果について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も伴わないものとします。いかなる場合にも、アトラディウス、その関連するパートナーシップもしくは法人、またはそのパートナー、代理人もしくは従業員は、読者またはその他の者に対して、本書に含まれる情報に依拠した判断もしくは行為、またはいかなる機会の損失、利益の損失、製品の損失、ビジネスの損失もしくは間接的損失、特別もしくは類似のあらゆる種類の損害について、これらの損失もしくは損害の可能性について言及していた場合でも、一切の責任を負わないものとします。

Copyright Atradius N.V. 2024

アジア

B2B支払リスク管理

B2B支払遅延がアジア企業にもたらす収益性の課題

アジア企業を対象とした調査から、支払遅延に関する複雑な状況が浮かび上がってきました。ほぼ半数の企業が、B2B顧客の支払動向は前年と比べて一貫していると報告していますが、これはより深刻な問題を隠しています。残りの企業では、支払動向が悪化していると答えた企業と改善が見られると答えた企業でほぼ半々に分かれています。全体的な影響としては、B2B信用販売全体の平均46%が支払遅延の影響を受けており、台湾、シンガポール、香港が最も大きな打撃を受けています。支払遅延が頻繁に発生するという憂慮すべき傾向があり、これは対処が必要な根本的な問題を示しています。現在、不良債権はB2B請求書全体の平均4%に達しており、特に日本企業はさらなる金銭的負担の影響を受けています。

アジア全域の企業が支払遅延に悩まされる主な原因は、B2B顧客間のキャッシュフローの問題です。42%の企業がこれを報告しており、特にインドでは、1回の支払債務不履行がサプライチェーン全体でより広範な信用問題を引き起こし、システムリスクを増幅させる可能性があるため、これは重大な懸念事項です。特に台湾では、非効率的な支払いプロセスが、もう1つの大きな要因となっています。現在、アジア企業は請求書を現金化するのに支払期日から平均1か月を過ぎており、深刻な金銭的負担を生み出しています。多くの企業、特にインドネシアでは、サプライヤーへの支払いを遅らせることで対応し、ベトナムやインドの企業は投資を延期する傾向があります。これは、支払遅延が直近のキャッシュフローに影響を与えるだけでなく、長期的な成長と戦略計画にも影響を与えることを浮き彫りにしています。

アジアの多くの企業は、支払遅延により、キャッシュフローの問題だけでなく法的費用や回収費用の増加に直面しており、それが急速に財源を枯渇させ、収益性を損なう可能性があるという回答しています。これはベトナムで痛切に感じられます。アジアにおける当社の調査では、ほとんどの企業が外部からの資金調達を求めることで流動性ギャップを埋めていると回答しており、特にベトナムとインドネシアでは60%がサプライヤーズクレジット（延払い信用）を要求しています。インドの企業は銀行融資を求める傾向があり、インボイスディスカウントを利用する企業もあります。これらすべてのアプローチは慎重に管理する必要があります。望ましい長期戦略は、回収効率を改善して売掛金回転日数（DSO）を安定させることです。過去1年間、アジア企業の約半数ではDSOが安定しており、他の多くの企業では改善が見られました。

当社の調査によると、アジア企業は財務の健全性を守るために慎重に事業戦略のバランスを取ろうとしていることがわかりました。これは、B2B販売の平均50%が信用取引で行われており、前年とほぼ変わらないことから明らかです。B2B顧客に提示される支払条件も、キャッシュフローを管理するという要望からほぼ安定していますが、特にインドでは、請

調査結果の重要ポイント

- アジア全域で調査対象となった企業のほぼ半数において、B2B信用取引相手の支払動向は過去12か月間一貫していますが、これはより深刻な問題を隠しています。残りの企業は、支払動向が悪化した企業と改善した企業にほぼ均等に分かれています。
- 支払遅延は依然としてアジア企業にとって大きな問題であり、現在、B2B信用販売の平均46%に影響を与えています。台湾、シンガポール、香港の企業が最も大きな打撃を受けています。現在、不良債権はB2B請求書全体の平均4%に達しており、特に日本企業にとってさらなる金銭的負担を生み出しています。
- アジアの企業の42%が、支払遅延の理由としてキャッシュフローの問題を挙げており、特にインドではその傾向が顕著です。B2B顧客間の非効率的な支払いプロセスも、もう1つの大きな要因です。現在、請求書が現金化されるまでに平均して1か月以上かかるようになり、多くの企業はサプライヤーへの支払いを遅らせることで対応しています。
- 流動性ギャップを埋めるために、アジアのほとんどの企業は外部からの資金調達に目を向けており、特にベトナムとインドネシアでは企業の60%がサプライヤーズクレジット（延払い信用）を要求しています。銀行融資やインボイスディスカウントも利用されています。長期的には、キャッシュフローの改善を図るために売掛金回転日数（DSO）に重点が置かれます。
- 現在、アジア企業によるB2B販売全体の平均50%が信用取引で行われており、この数字は前年から変わっていません。B2B顧客に提示される支払条件もほぼ安定していますが、特にインドの多くの企業は、請求書発行から平均43日というより長い支払条件を提示しています。
- アジアの企業の78%は、信用リスク管理を社内で維持しながら、問題を保険会社に移行するという組み合わせを選択していると回答しています。これは特にインドネシアの企業から報告されています。信用状は、輸出B2B信用取引を保護するためにも広く使用されています。

求書発行から平均43日というより緩やかな支払条件を提示している企業がかなりあります。柔軟なアプローチは、顧客信用リスクの管理にも表れています。アジア全域の企業の78%は、問題を社内で保持し、信用リスクを保険会社に移行するという組み合わせを選択することが多いと回答しています。これは特にインドネシアでよく見られます。信用状は、輸出B2B信用取引を保護するために広く使用されています。

主な統計値とグラフは次ページ参照



アジア

アジアにおけるB2B支払動向

B2B請求書の期日内に支払済み、遅延、不良債権の割合

(回答企業の割合)

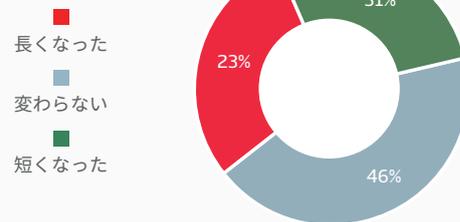


サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

過去12か月間の支払期間の変更を報告した回答企業の割合*

(回答企業の割合)



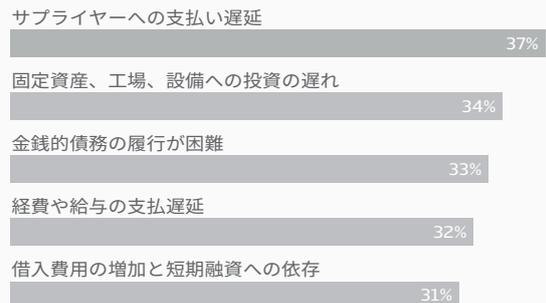
* B2B顧客から支払を受けるまでの平均期間

サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

過去12か月間に、B2B顧客からの支払遅延により、貴社が以下のような状況に陥ったことがありますか？

(回答企業の割合 - 複数回答)



サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

貴社が過去12か月間に使用した主な資金調達源は何ですか？

- 60% 企業間信用
- 60% 銀行融資
- 53% インボイスファイナンス
- 45% 内部資金

(回答企業の割合 - 複数回答)

サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジア

将来予測

アジア企業は今後数ヶ月の倒産リスク見通しで意見が分かれる

アジアの企業の間では、今後1年間でB2B顧客の支払動向が改善するだろうという見方が広まっています。これは58%の企業から報告されており、調査対象の多くの業界において相対的に楽観的な見通しが示されています。残りのほとんどは、支払動向にほとんど変化がない、あるいは全く変化がないと予想しており、悪化を予想していると答えた企業は少数にとどまりました。売掛金回転日数（DSO）の見通しについても同様の前向きな見方が見られます。アジア企業のほぼ半数は、円滑な事業運営につながる顧客信用リスクの効果的な管理に注力しており、この状況は改善すると予想しています。残りの企業の間では、DSOに変化がないか、悪化してキャッシュフローがさらに圧迫される可能性があるかと予想しているため、慎重な姿勢が見られます。

当社の調査によると、アジアの企業は今後12か月間の倒産リスクの見通しについてほぼ真っ二つに分かれていることがわかりました。継続的な支払遅延と信用リスクの課題が、企業の49%が、今後1年間でB2B顧客の倒産が悪化すると予想していると回答している理由であると考えられます。この見方は特にインドで顕著です。対照的に、多くの企業は倒産リスクのプラス傾向を予想しており、より楽観的な見方をしています。需要については楽観的な見方があり、アジア企業の72%が今後1年間の売上増加を予想しています。日本からは悲観的な見方も見られるものの、63%の企業が利益増加にも自信を示しています。

絶えず変化する国内および世界経済状況の影響に関する不確実性は、アジア全域の企業にとって今後の主な懸念事項です。特にインドネシアでは、35%の企業が、厳しい経済状況が短期的にも長期的にも自社の事業見通しに重大な影響を及ぼす可能性があるという不安を表明しています。企業は、コストの上昇、サプライチェーンの混乱、市場の不安定性など、高まる需要を生かす能力を損なう可能性のある要因を依然として警戒しています。当社の調査では、非効率な営業努力や顧客基盤の拡大における問題など、顧客獲得の課題に関する懸念も明らかになっています。これにより、成長の機会が制限されるだけでなく、信用リスクも増加します。

アジア企業を対象とした当社の調査では、企業自身の財務安定性を脅かすだけでなく、B2B顧客の信用リスクにも大きな影響を及ぼす問題など、いくつかの追加の懸念事項が特に顕著でした。時代遅れのプロセスや不十分な生産能力などの運用上の課題は、生産性を妨げ、コストを増加させる可能性があります。データの整合性と機密性に対する脅威を含むサイバーセキュリティのリスクは、事業運営を混乱させ、顧客の信頼を損なう可能性があります。もう一つの差し迫った懸念は市場

調査結果の重要ポイント

- アジア企業におけるB2B顧客の支払動向については、概ね楽観的な見通しが示されています。企業の58%が、今後1年間で支払いが改善されると予想していると回答しています。残りの大多数は支払動向に変化はないと予想しており、悪化を懸念している企業は少数にとどまっています。
- 当社の調査対象となったアジア企業のほぼ半数が、顧客の信用リスクを効果的に管理する取り組みに注力しているため、今後12か月で売掛金回転日数（DSO）が改善すると予想しています。アジアの他の企業はより慎重で、DSOに変化がない、あるいは悪化し、キャッシュフローに負担がかかる可能性があるかと予想しています。
- 継続的な信用リスクの課題に対する懸念からも、慎重さが表れています。このことは、アジア全域の企業の間で倒産リスクに対する見通しが分かれていることから明らかです。特にインドの企業の49%は、今後1年間でB2B顧客の倒産が悪化すると予想していますが、その他の企業は前向きな傾向を予測しています。
- アジア企業の72%が、今後1年間に自社の製品およびサービスに対する需要が増加すると予想しており、減少を予測している企業は少数です。企業の63%は収益性の向上に自信を示していますが、日本企業では悲観的な見方が多くなっています。
- アジア企業にとって今後の主な懸念は、不確実な国内外の経済情勢の影響であり、35%の企業はそれが事業見通しに重大な影響を与えることを懸念しています。多くの企業は、顧客獲得における大きな課題に直面することに対する懸念も強めています。
- アジア全域の企業からは、他にもいくつかの懸念が表明されています。これらには、運用上の課題、サイバーセキュリティのリスク、市場の飽和、金銭的な制約などが含まれます。これらの相互に関連する問題により複雑な環境が生まれ、企業がリスクを軽減し長期的な持続可能性を確保するための強力な戦略を採用することが重要になります。

の飽和であり、これにより事業の拡大と収益性の維持が困難になります。資本不足やキャッシュフローの不足などの金銭的な制約により、投資の可能性が大幅に制限される可能性があります。これらすべての相互に関連する課題により、企業はリスクを軽減し、長期的な持続可能性を確保するための強力な戦略を採用することが重要になります。

主な統計値とグラフは次ページ参照



アジア

アジアにおけるB2B支払動向

向こう12か月の予測：B2B顧客の支払動向はどのように変化するとお考えですか？

(回答企業の割合)



サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

今後12か月間、顧客の倒産リスクは高まるとお考えですか？

(回答企業の割合)

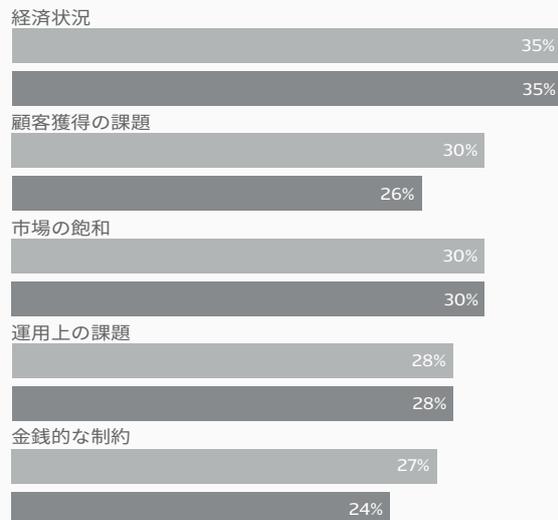


サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

将来予測：調査対象企業が表明した懸念事項トップ5

(回答企業の割合 - 複数回答)



■ 短期（今から1～2年後）
■ 長期（10年以上）

サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

アジアにおけるB2B支払動向

向こう12か月間で平均DSOはどのように変化するとお考えですか？

- 49% 改善
- 38% 変化なし
- 13% 悪化

(回答企業の割合)

サンプル：全調査回答企業
出典：アトラディウス支払動向バロメーター - 2024

調査設計

アトラディウスは、『アトラディウス支払動向バロメーター』と呼ばれる調査を通じて、国際的な企業支払動向の年次レビューを実施しています。本レポートは、2024年版アトラディウス支払動向バロメーターの一部であり、アジア企業に焦点を当てたものです。本レポートで取り上げられている市場は、中国、香港、インド、インドネシア、日本、シンガポール、台湾、ベトナムです。

調査方法の変更により、一部の調査結果については対前年度比較ができなくなりました。質問票を使用して、CSA Researchは合計で2,154件のインタビューを行いました。

すべてのインタビューはアトラディウスの利用のみを目的として実施されました。

調査範囲

- **基本母集団**：アジア地域の企業を調査し、売掛金管理に関して適切な窓口インタビュー調査を実施しました
- **サンプル設計**：戦略的サンプリング計画により、部門および企業規模を横断する市場データの分析が可能になりました。また、調査対象市場ごとの特定の部門を参照するデータの比較が可能になりました。
- **選択プロセス**：国際的なインターネットパネルを使用して、企業を選択し、問い合わせを行いました。インタビュー開始時に、適切な担当者との割当管理のためのスクリーニングが行われました。
- **サンプル**：合計で2,154人にインタビューを実施しました。企業規模に応じて4つのクラスで割当率を確保しました。
- **インタビュー**：約15分間のコンピューター支援ウェブインタビュー (CAWI)
インタビュー時期：2024年第3四半期。したがって、調査結果はこの点を念頭に置いて見る必要があります。

さらに詳しく

[アトラディウス](#) ウェブサイトで最新の出版物を幅広くご覧いただけます。[ここをクリック](#)すると、各業界の業績に関する当社の分析、国固有および世界的な経済懸念の詳細情報、与信管理問題のインサイト、顧客の支払不履行から売掛金を保護するための情報にアクセスできます。

最新リリースを入手するには、フォローしてください。[登録](#)すると、出版物の通知や、新しいレポートが発行されたときのアラートを含む電子メールを週1回受信できます。

アジアおよび世界のB2B売掛金回収動向については、atradiuscollections.comにアクセスしてください。

アジアの場合は、次のリンクにアクセスしてください：

atradius.sg

メールアドレス：atradius.asia@atradius.com

LinkedInの場合：[Atradius Asia](#)をフォローしてください。

サンプル概要 - 合計インタビュー数 = 2,154

業種	インタビュー件数	%
製造業	1191	55
卸売	286	13
小売/流通業	486	23
サービス業	191	9

合計 **2,154** **100**

企業規模	インタビュー件数	%
中小企業：小規模企業	230	11
中小企業：中規模企業	605	28
中堅企業	826	38
大規模企業	493	23

合計 **2,154** **100**

業界	インタビュー件数	%
農業および食品	185	9
化学/医薬品/エネルギー燃料	677	31
建設	50	2
耐久消費財	221	10
電子機器/ICT	372	17
鉄鋼/金属	152	7
繊維/衣料品	198	9
輸送/自動車	299	15

合計 **2,154** **100**

方法的注釈

昨年はさまざまな業界がアジアに関する調査の対象となりました。このため、特定のトピックについては、今年度の対前年度比較ができません。昨年のアジアに関する調査結果の詳細な概要については、[アトラディウスのウェブサイト](#)にある特定のレポートを参照してください。

ソーシャルメディアで
アトラディウスをフォローしてください



@Atradius



アトラディウス

アトラディウス
David Ricardostraat 1 · 1066 JS Amsterdam
Postbus 8982 · 1006 JD Amsterdam
The Netherlands
電話：+31 20 553 9111

info@atradius.com
atradius.com